

## 地図帳の活用は教科の枠をこえる

知識読み物作家 渡辺一夫

### 1. 地図は世界の共通語

海外取材で苦労するのは、ことばがさっぱりわからない国にでかけたときです。たいせつな交渉ごとでは通訳をつけますが、それ以外は通訳なしの一人で行動するのが私のやりかたです。イランの取材でも、地図を利用することでどんなに助けられたことか。

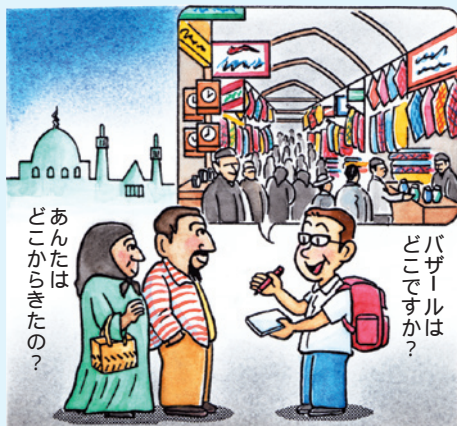
#### 「バザール（市場）はどこですか？」

旅行用の会話の本のこんな例文をゆびさしてたずねることはしょっちゅうです。イランの首都テヘランでのことです。相手のペルシア語はくやしいけれど何をいっているのかわかりません。でも、ここであわててはいけません。メモ帳を取り出して「地図をかいてください」とゼスチャーでたのみます。今いるところからどのように道をたどっていけばバザールにたどりつけるか、メモ帳に道の線をかいてもらうのです。こんなとき、地図は世界の共通語だなどつくづく実感させられます。

#### 「あんたはどこからきたの？」

たいていの人は、手振りをまじえこんなふうにかきかえしてきます。まってましたとばかり、私は、日本の小学校の地図帳をかばんから取り出します。

おたがいに言葉がわからなくても、地図帳をつかえば、自分が日本からきたことをつたえることができます。地図やグ



ラフがあるので、日本の位置や気候や国のようすもつたえることができます。日本の小学校の地図帳は、山なみだけでなくイラストをたくみにつかっているのとくにわかりやすい。だから、海外取材のおりにはかならず、地図帳をもっていくのです。

### 2. 「地図帳交流」のすすめ

今小学校の総合学習の時間では、国際交流をテーマにとりくむ学校がふえています。この総合学習の時間でこそ、日本にくらす友だちや、海のむこうからやってきた人たちと「地図帳交流」をやってみるのはどうでしょう。おたがいに言葉が不自由だからこそ、こまやかでさまざまな情報もりこまれた地図帳の指旅行が、私が取材で体験したことと同じように交流の架け橋となってくれるにちがいないと思うからです。

どの国の人も、地図帳にえがかれた日本列島の複雑な海岸線と山がちの地形におどろきの声をあげます。地図帳にえがかれた道路や鉄道が網の目のようにはりめぐらされているようすを、信じられないという顔をしながらめくります。自分の国がどのように取り扱われているかにも興味をしめします。

言葉が通じないものどうしても、地図帳を指さしながらの「会話」がはずむと、おたがいの心までうちとけてくるような気がしてきてとてもうれしいものです。



「この地図帳を、子どもたちにもみせたいから、ぜひともわが家で夕食をたべていってくれませんか」と、地図帳が縁でうれしいおさそいをうけたこともありました。もっともアルゼンチンでは、日本が地球の裏側にあることが地図帳ではなかなか理解してもらえず、サッカーボールをつかって日本の位置をおしえたら、「ああそうか」とわかってもらえたこともありました。

### 3. 地図帳でふくらむ音楽の心

こんなこともありました。メキシコの小学校の取材で、子どもたちと「地図帳交流」をしていたときのことです。

「日本はずいぶん細長い国なのね。北の地方と南の地方では、いろんな音楽があるんでしょう？」

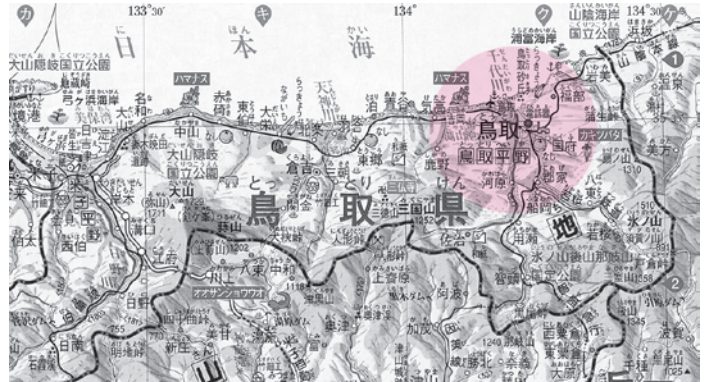
日本の地図帳をじっとながめていた女の子がふとつぶやいたのです。そういえば、メキシコは、地方によってさまざまな音楽やおどりがあります。

日本の小学校では運動会などで「ソーラン節」にあわせて集団でおどったりします。もちろん、指導の先生方は、それが北海道のニシンを定置網から網ですくいあげるときに歌われていたことを説明していることでしょう。でもこのときに、子どもたちにならず地図帳をひらかせてくれたら、もっとはっきりと地理的な状況がつかめるはずです。

熊本県の五木や福岡県の博多、中国地方には、さまざまな子守歌があります。それぞれどの地方で歌いつがれてきたものが、先生は教えてくれているはずです。でも、このときどれくらいの子どもたちが、地図帳でたしかめたりするでしょう。

小学校の音楽の教科書をのぞくと、「おむすびころりん」「かさじぞう」「つるのおんがえし」「走れメロス」「銀河鉄道の夜」など、お話を音楽で表現するところがされています。お話の舞台を、地図帳でおそわったら、子どもたちの想像力はさらにふくらむにちがいありません。

「ふるさと」「春が来た」「おぼろ月夜」などといった歌は長く歌い続けられてきた曲です。どんな人が作曲したのでしょうか。作曲者は岡野貞一。鳥取市で生まれ育ちました。まちには千



帝国書院『小学生の地図帳(最新版)』p.22

代川だいがわがながれています。こんな作曲家の心をはぐくんだふるさと鳥取はどんなまちでしょう。

作詞は国文学者の高野辰之。長野県の下水内郡永田村(現在の豊田村)です。千曲川ぞいの村です。心あたたまる詩をつくった高野辰之の心をはぐくんだふるさとはどんな村なのでしょう。

帝国書院『小学生の地図帳(最新版)』p.29

こんなときにまっさきに関きたいのも地図帳です。まず、鳥取市や豊田村を地図帳でさがしてみるところから、作曲家や作詞家調べがはじまります。

地図帳は、さまざまな曲の心をつたえてくれる架け橋にもなるのですね。